



日高工業 株式会社
代表取締役社長

今村 順氏

(いまむら すなお)

お客様と手を携えたモノづくりを目指す

Company Profile

株式会社 日高工業株式会社

所在地：愛知県刈谷市一里山町柳原7-1

TEL：0566-36-2390 FAX：0566-36-0279

事業内容：浸炭焼入焼戻、焼入焼戻、焼きなまし、ガス軟室化、プレステンパ、固溶化処理

エミダス会社情報：http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php? 81020



材質、形状、熱処理方法など、様々な条件にあった熱処理技術を行う



お客様のご要望に応じて、開発を含む試作づくりにも積極的に取り組む

お客様との信頼関係

日高工業は愛知県刈谷市、豊明市に3つの工場を構え、薄板物の焼入れ、浸炭焼入れ、ガス軟室化を得意とした熱処理メーカーである。ボルト1本の少ロット品から量産まで対応している。自動車のブレーキやミッション、ドアロック、シートのリクライニング機構、シートベルトなどの部品を主に扱うほか、ベアリング関連へも活躍の場を広げている。

同社では製品のひずみ、寸法変化に神経を使った熱処理をしており、規格から外れるのは極わずかである。鋼材の成り立ちや前工程での加工により、変化の出方が変わる。いずれも熱を加えてみて初めて出てくるので、プレステンパで矯正するなど、最後は手間をかけてでも責任をもって直し、ほぼ全数納品を可能としている。設備の種類や台数も揃っているため、お客様の要求するものに応じる体制が整っており、好評をいただいている。

品質を大切にすること、いい製品を納め続けることが信頼の積み重ねであり評判になる。そのため、お客様を裏切らず当たり前ながらも自分たちで出来ることを確実にを行うことを徹底している。

社長の思い

バブル崩壊による大不況の頃、受注は減少し、機械が空いてしまった。先行きが不安な中、スタッフを集めて改善の提案を繰り返し、なんとか危機を乗り切

った。今村氏が社長として気をつけてきたことは、現場とお客様の要望をうまく調整し、担当者の無理難題にも中小企業特有の小回りのよさで対応すること、更には大手メーカーが求める品質・経営管理能力の水準を守ることである。このふたつが両立してこそ“いい会社”なのだと考え、そのうえでセットメーカーの不満や要望を自分たちが吸い上げて改善している。「会社が大きくなるとセクショナリズムが起きやすいが、そういう壁を取り払い、中小企業ならではの反応の良さを維持しなくてはいけない」と今村社長は語る。

現在では原油高の煽りで購入する資材が高騰、さらには労務上の問題など課題は色々あるが、スタッフの気持ちさえ揃えば十分成せるという手ごたえが感じられている。社員のひとりひとりが熱処理のプロであること、窓口の営業担当でもお客様にコメントを返せる知識の必要性を感じ、全社を通してテキストを用いたOJT及びOFFJTを行っている。そうすることによって設計の段階から熱処理の工法について提案できる体制を整えている。「不良の傾向も把握し、前工程での異常についてもアドバイスを出来るようにしたい。最終的にはお客様と手を携えていい製品を作ることが大切」と、今村社長は続けた。

社員の才能を可能性につなげる

同社では生産能力の増加とともに設

備も増え、人員が足りず中堅の社員への負担が多くなってきていた。そこで残業や休日出勤といった肉体的な負担を軽減するため、昨年からは高齢者の採用を始めた。高齢者にも可能な比較的簡単な仕事を割り当て、体の負荷がかかる作業には設備を導入するなど、働きやすい環境作りへと改善を図った。機械装置の表示も理解しやすいように工夫している。また働く曜日や時間帯などに考慮し、希望に合わせた短時間勤務にも柔軟に対応している。

外国人労働者も積極的に採用し、彼らの育成にも力を注いでいる。既にリーダーになっている者も数名おり、今後はもっと重要なポストも任せたいと期待している。

また、同社では女性の能力も高く評価されている。治具セットや検査、ひずみの矯正、場合によってはフォークリフトに乗って荷物を運んだり、製造現場の第一線でも力を発揮している。今後は女性特有の細やかな神経を活かした新製品、試作品を専門とした“女性だけの製造部門”の立ち上げへと前向きに検討しており、新たな挑戦に期待が高まる。さらに進み続ける産業のグローバル化について「熱処理の工程も簡単なものから海外移転に向かう。勝ち残れるように、技術、設備、人材をしっかり固めていきたい」と、今村社長は笑顔で結んだ。